



2017年からミベンゲ地区で働いています。以前、私たちの地域にはマタニティハウスがなく、保健センターには小さな分娩室と部屋があるのみでした。保健センターまでの遠いアクセスに加え、出産時のプライバシーが保てないことも施設で出産することを妨げる理由の一つでした。また、若者が集まる場所がないため、若者が保健センターに行きにくい状況やヘルススタッフ1名の体制ですべての対応をしていることに限界がありました。

プロジェクトのお陰で、これらの課題を改善することができました。マタニティハウスが建設され、SMAGメンバーの紹介のもと、遠方の妊婦さんも事前に宿泊し、保健センターで出産するようになりました。そして、若者PEが育成され、ユースセンターで同年代の若者同士でSRHについて語る場所が確保できました。これにより、性感染症やHIV検査を受診する若者が増加、ヘルススタッフの住居建設により、ヘルススタッフが増員されました。SMAGのコミュニティでの啓発教育活動を通して、保健センターでの出産、産後健診、男性参加、家族計画の増加などにも成果として現れ、多くの行動変容が見られました。これまで自宅出産していた女性は、SMAGの家族計画に関する相談や啓発教育により、避妊具を使用して出産間隔をあけて妊娠の計画を立てるようになりました。ジョイセフやPPAZの協力により、私の地域の住民たちの保健行動に変化が起り、母子保健が改善できたことに心より感謝しています。

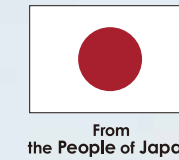
ブレンダ ムウェンダ (ミベンゲ保健センター看護師)
Breanda Mwenda, Nurse, Mibenge RHC, Lufwanyama



コッパーベルト州におけるワンストップサービスプロジェクトの実施団体であるジョイセフは、ザンビアのパートナー、友人そしてコミュニティの皆さまに心からのお礼を申し上げます。ワンストップサービスがザンビアの皆さまによって完全に実施される日を、とうとう迎えることができました。この時にあたり、ジョイセフはプロジェクトの目的とゴールは達成されたのかと自問自答します。そして喜びと確信をもって「イエス」と答えます。

プロジェクト名であるワンストップサービスは我々の希望を表現しています。プロジェクトの究極の目標は保健スタッフと住民との「ゆるぎない信頼」を築くことにあります。それは強靱なコミュニティの基礎となるものです。新型コロナウイルスや未知のウイルスに襲われたとしても、この信頼があれば地域住民と保健スタッフは協働し、困難を乗り越えてゆけると信じています。「ワンストップサービス」は地域の誇りなのです。

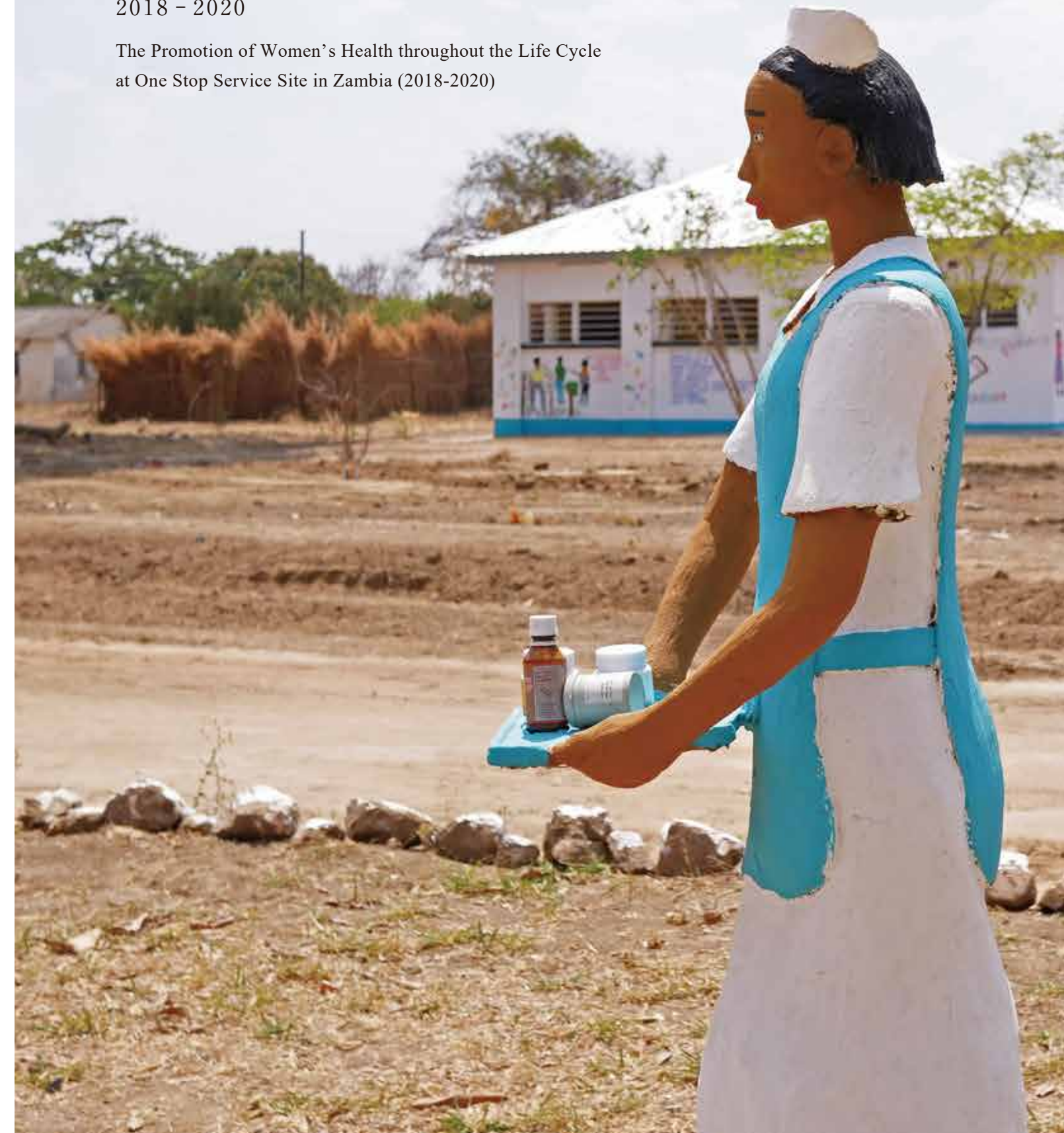
石井 澄江 (ジョイセフ理事長)
Sumie Ishii, Chairperson, JOICFP



ザンビア共和国ワンストップサービスサイトによる 生涯を通じた女性の健康づくりプロジェクト

2018 - 2020

The Promotion of Women's Health throughout the Life Cycle
 at One Stop Service Site in Zambia (2018-2020)



Sexual and Reproductive Health and Rights for all



公益財団法人ジョイセフ

〒162-0843
 東京都新宿区市谷田町1-10 保健会館新館
 Tel: 03-3268-5875 (代表) Fax: 03-3235-9774
 Web: www.joicfp.or.jp



Planned Parenthood Association of Zambia

House No.8, Boundary Road, Northrise,
 P.O. Box 72442, Ndola, Zambia
 TEL +260-212-2640996
 Web: www.ppaz.org.zm



プロジェクト概要

目的

プロジェクト対象地域において、若者や妊産婦を含む女性の生涯を通じた保健サービス利用へのアクセスが増加する

現地協力団体

IPPF ザンビア (ザンビア家族計画協会:PPAZ)、コッパーベルト州保健局、マサイティ郡保健局、ルフワニャマ郡保健局、ムボングウェ郡保健局

対象地域及び人口

コッパーベルト州

マサイティ郡人口：140,452人

3地区 (Njeleman, Lupiya, Chiwala) & 5地区 (Mutaba, Kambowa, Mishikishi, Chileshe, Kafulafuta)

ルフワニャマ郡人口：98,000人

3地区 (Mibenge, Lumpuma, Mukutuma)

ムボングウェ郡人口：110,744人

5地区 (Kalweo, Mikata, Kanyenda, St. Anthony, Ipumbu)

支援協力

日本 NGO 連携無償資金協力

長崎大学熱帯医学・グローバルヘルス研究科

順天堂大学スポーツ健康科学部 / S.C.P.Japan (Sports for Creating Pathways)

塩野義製薬株式会社

リンク・セオリー・ジャパン

Fay Designs

NOWSPAR (National Organisation for Women in Sports, Physical Activity and Recreation)

国際家族計画連盟 (IPPF)

JOICFP フレンズ

企業・団体・個人からの寄附

成果

保健施設で出産する妊婦の割合

45.9% (2017年) → 48.3% (2019年)

産前健診 (4回) 受診した割合

11.3% (2017年) → 71.7% (2019年)

6日後の産後健診を受診した割合

47.8% (2017年) → 68.2% (2019年)
(新サイトである6保健施設の平均)

人材育成数

ヘルススタッフ延べ80名、SMAG 180名、PE 120名、地区運営委員会 (LSC) 60名

SRHに関する情報への住民へのアクセス数

44,121人以上 (2018年～2019年)



ジョイセフは、「妊産婦・新生児保健ワンストップサービスプロジェクト (2014-2017)」の経験をもとに、地域の拡大及びより包括的な継続ケアを目的として、「ワンストップサービスサイトによる生涯を通じた女性の健康づくりプロジェクト」を2018年から3年間事業として外務省の「日本 NGO 連携無償資金協力」により開始した。これまで、既存の保健施設に、母子保健棟、マタニティハウス (出産待機ハウス)、ユースセンター、助産師住居、水タンクを建設し、質の良いセクシュアルリプロダクティブヘルス (SRH) に関するサービスと情報が一カ所で提供できるワンストップサービスサイトとして計2カ所、前事業の3カ所も含めるとコッパーベルト州に合計5カ所のワンストップサービスサイトを完成させた。



今期は、新規6地区におけるヘルススタッフや母子保健推進員 (SMAG: Safe Motherhood Action Group)、若者ピア・エドゥケーター (PE: Peer Educators) などの人材育成を実施し、前事業の10地区のサイトとあわせて合計16地区でのコミュニティ啓発教育活動を展開し、ワンストップサイトの視察やコミュニティ同士の相互経験共有を通してコミュニティにおけるヘルスプロモーション活動を促進した。また、産前健診及び男性参加の促進を図るためのママバクラス、スポーツを通じた思春期の女性のエンパワメントなど新規のプログラムを導入し、教員や伝統的リーダーの巻き込みによる思春期保健をサポートする体制づくりを強化することにより、生涯を通じた女性の健康づくりのための地域啓発教育と質のよい保健サービスの向上を目指した。ワンストップサービスサイトは、農村地域におけるヘルスプロモーションの拠点として大きな役割を果たし、地域の人材育成を通して、コミュニティ主体による保健推進活動や収入創出活動を活性化させ、コミュニティのオーナーシップを醸成した。



好事例 1

ママパクラスを導入

日本での取り組みを学ぶため、プロジェクト関係者（保健省、州保健局、郡保健局、保健施設の助産師）が2018年に来日。本邦研修での両親学級の視察からの学びにより、Respectful Maternity Care をコンセプトに、各保健施設にてママパクラス（MPC）を導入した。MPCは、保健省によるANC（産前健診）ガイドラインに従い、妊娠中の女性及びパートナーへのタイムリーな情報を届けている。産前健診回数が4回から8回への増加への認知普及、そして、男性参加の促進として、妊娠中のケアや産後ケア、家族計画についてパートナーと一緒に学び、カップルのコミュニケーションを図るきっかけともなっている。各関係者から構成されるMPCアドバイザー委員会が設立され、ガイド（フリップチャート：指導用教材）を制作し、SNSを活用するなど、進捗状況の共有やサポート体制を整備した。



好事例 2

コロナ禍での5Sの試み

保健施設の管理・サービス環境の改善を目指すため、5S研修（5S: 整理、整頓、清掃、清潔、習慣）をヘルススタッフ対象に実施した。段ボールなど現地で活用できるリソースを有効活用し、様々な工夫をする5Sの事例が共有された。また、施設におけるコロナウイルス感染予防への工夫として、待合室や受付での密を避けるための好事例などを共有し、クライアントフレンドリーな環境整備を実践している。



好事例 3

思春期の女性を対象にしたスポーツを通じたエンパワメント / 思春期保健へのサポート

スポーツを通して自分の体を守る知識を身に付けると同時に、チームワークやリーダーシップを学ぶための実践的なエクササイズを交えたワークショップを若者ピアエデュケーター（PE）の女性を対象に開催した。性に関する質問や性暴力予防のためのエクササイズを通して、SRHについて学びきっかけとなり、各地域でPEが中心となり、若者同士でのプログラムを展開している。また、学校教員や伝統的指導者などへの研修を行い、地域で思春期保健活動をサポートする体制を強化した。



スポーツ・フォー・トゥモロー・コ 会員カンファレンス20

©SFTC事務局提供

スポーツ庁長官からの感謝状を授与しました（2019年12月）



好事例 4

コミュニティによるイニシアティブ

2019年にミベンゲ地区にワンストップサービスサイトが完成し、ヘルススタッフ数を増員した。ヘルススタッフの住居を確保するため、地区運営委員会（LSC: Local Steering Committee）メンバーが中心となり、資金やリソースを持ち寄り、ヘルススタッフの住居を建設した。また、ワンストップで活用できる新しいトイレも作り、コミュニティの高いコミットメントとオーナーシップにより、女性の命を守るためのコミュニティによる保健推進活動を進めている。

好事例 5

Public Private Community Partnership (PPCP)

ムクトゥマ地区では木材を扱う現地企業（ZAFFICO）から支援を得て、マタニティハウス建設や母子保健棟への水道確保などの整備を進めている。保健局、企業、そしてコミュニティ（LSC）の協働が実現されている。

VOICES for Change

このプロジェクトは、地域の人材育成と保健サービスの施設整備の両方を包括的に支援してくれました。ワンストップサービスサイトのお陰で、SRHに関する保健サービスと情報提供が充実し、保健サービスがより多くの女性たちに届くようになりました。SMAGメンバーは、とても協力的で、継続的なコミュニティでの啓発教育活動を継続していることにより、住民の保健行動にポジティブな変化が見られました。それは、女性だけではなく、多くの男性も恩恵を受けています。伝統的チーフとして、今後も地域での若年妊娠や性暴力予防を減らすことを推進していきたいと思えます。

チーフ チワラ（マサイティ郡伝統的チーフ）
Chief Chiwala, Masaiti



ワンストップサービスプロジェクトは、コッパーベルト州の3郡で実施され、これまでに合計5カ所に包括的な生涯の女性の健康づくりのためのワンストップサービスサイトが整備されました。ワンストップサービスサイトでは、母子保健棟、マタニティハウス、助産師住居、ユースセンターの建設や基礎的医療機材の提供以外に、ヘルススタッフ、SMAGメンバー、若者PEなどの人材育成や地区運営委員会によるサポートもすべて含まれています。この包括的な取り組みは、州の農村地域における妊産婦支援として好事例のモデルとなり、大きな成果を残しました。

ワンストップができたことによって、保健サービスの質の向上につながり、また地域で積極的に啓発教育活動を行うSMAGメンバーや若者PEの活躍により、住民の保健行動に関する意識や知識の向上にも変化が現れました。なにより、保健センターまで歩いて4-5時間かかる地域の女性たちが、出産予定日前に宿泊できるマタニティハウスができたことは、これまで自宅出産していた女性たちの出産リスクを低減することに大きくつながっています。最後に、州保健局を代表し、多大なご支援とご協力を賜りましたジョイセフとPPAZ、日本政府、そして日本の皆さまに深く御礼申し上げます。

ブレンダ ハモンガ（コッパーベルト州保健局シニア看護オフィサー）
Brenda Hamonga, Senior Nursing Officer, Copperbelt Provincial Health Office

3年間の活動

1. コミュニティでのSRHに関する人材育成と啓発教育活動の強化

各地区の保健スタッフの人材育成研修や母子保健推進員（SMAG）及び若者ピアエデュケーター（PE）を対象とした研修を通して、セクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス（SRH）に関する啓発教育活動を強化した。保健スタッフを対象に、ママバクラス、5 S、モニタリングなどの研修を実施し、子宮頸がん・乳がん予防を含めた生涯を通じた女性の健康づくりに関する保健サービスや情報提供、サービス環境の改善を推進した。



IEC/BCC 教材：

- ジョイセフエプロン改訂バージョン（英語版）
- ママバクラスフリップチャート（指導用教材）（英語版）
- 子宮頸がん・乳がん予防のためのパンフレット（英語版 / 現地語版）
- PE フリップチャート（英語版）



2. リプロダクティブ・ヘルスサービスの質の向上

既存の保健センターを拠点に、母子保健棟、マタニティハウス、ユースセンター、助産師住居、水タンクの建設及び医療機材の供与により、マサイティ郡ンジェレマニ地区（2018年）とルフワニャマ郡ミベンゲ地区（2019年）の2カ所にワンストップサービスサイトが完成した。ワンストップサービスサイトでは、保健施設の利用促進のためのSMAGと若者PEによる参加型ペインティングワークショップを実施し、安全な妊娠と出産など、SRHに関するメッセージをイラストとしてコミュニティが外壁に描いた。住民参加型で創り上げたワンストップサービスサイトは、より多くの住民に利用してもらうことを目指し、地区運営委員会（LSC）が中心となり運営管理を行っている。



ンジェレマニ保健センターがコッパーベルト州のベスト保健センター賞に！
2018年にワンストップサービスサイトとして生まれ変わったンジェレマニ保健センターは、コッパーベルト州の200以上ある保健施設の中から、ヘルススタッフの運営管理や地域のLSCメンバーやSMAGの主体的な取組みなどが評価され、2019年ベスト保健センター賞に選定された。ンジェレマニ保健センターは現在、モデル保健センターとして多くの関係者を受け入れ、学びの場としての役割を担っている。

3. 継続ケアのためのコミュニティの連携体制の強化

各地区のヘルススタッフ、村のリーダー、伝統的指導者、教員、SMAG、若者PEなど10名で構成される地区運営委員会（LSC）を対象に、プロジェクト開始時に、地域での課題や保健啓発活動についての協議を行うことで、SMAGやPEが活動しやすい地域でのサポート体制を図った。また、各地区で活動の持続性を考慮した活動計画を策定し、様々な収入創出活動を展開している。企業連携による支援で女性の自立支援を行うムタバ地区や、LSCのリーダーシップが好事例であるカルウェオ地区に、洋裁やコットン栽培などを視察する相互研修を開催し、お互いの経験を共有し、学びあう機会を通して住民主体による活動や地域間での連携強化を行っている。

「第1回ジャパンSDGsアワード」SDGsパートナーシップ賞（特別賞）をジョイセフが受賞

受賞理由の活動の一例として、ザンビアでの「妊産婦・新生児保健ワンストップサービスプロジェクト」が、SDGsの目標3「保健」、目標5「ジェンダーの平等」を推進しているほか、地域住民を主体とした活動に加え、日本政府や国内外の企業・一般の市民の方など多岐にわたる協力や支援で成り立っていることから目標17「パートナーシップ」の点が評価された。



企業支援による連携



女性の自立と健康支援—縫製技術とコットン栽培支援

リンク・セオリー・日本の支援協力により、2018年からマサイティ郡の3地区にミシンを寄贈し、縫製技術のための研修を実施した。ジョイセフエプロン、学校制服、ドレス、コロナ感染予防のためのマスクなどを販売する収入創出活動を展開している。また、コットンを栽培し、染色やドアマットなどの製品の加工方法を学ぶワークショップも開始し、女性の経済的な自立と健康支援を推進している。



水タンク・井戸の設置—施設での安全な出産を支援

2カ所に完成したワンストップサービスサイトには、テルモ生命科学振興財団の助成支援によって水タンクと井戸が設置されたことにより地域での水の確保ができ、より安全な出産のための環境が可能となった。